
SYMTAB ;

機能:

SYMTAB は、TSP プログラムの全変数の特性を示す TSP シンボル表をプリントします。主として TSP プログラムをデバックするのに有用です。

使用法 :

SYMTAB はプログラムのどこでも使うことが出来ます ; プログラムのその点までに使われた全ての変数に対する名前、位置、型、長さ、ファイル位置をプリントします。表の内容は以下のアウトプットの部分にあります。

例 :

プログラムの最後に SYMTAB コマンドを置くと、それまでに使った全ての変数が出力されます :

```
NAME USER ;  
.  
TSP プログラム・ステートメント  
.  
SYMTAB ;  
STOP ;  
END ;  
.  
TSP データ・セクション  
.  
END ;
```

アウトプット :

シンボル表のプリントは各変数に対して 6 項目あります :

1. 変数名 - 作成した全ての変数が、プロシジャーの結果に含まれている全ての@変数と同様にプリントされます。加えて、L 0001 または F 0001 等で始まる多くの変数があります。これらの変数は、GENR や SET コマンドで作られた TSP プログラム行や方程式です。
2. 位置 - これは単精度ワードのブランクコモンの上側最後にある変数のアドレスです。
3. 型 - これは変数の型です。正しい型は次の通りです :

型	内容
1	スカラーまたは定数
3	時系列
4	パラメータ
6	方程式
7	定義式
8	モデル
9	テキスト文 (FILE=, FORMAT=, TITLE= に対する)
10	プログラム変数 (コマンド, DO, IF, または PROC 情報)
11	一般行列
12	対称行列
13	三角行列
14	対角行列
20	変数名リスト

4. 長さ - これは単精度変数での変数の長さです。長さは、全ての変数、時系列そして行列に対して2つの余分な項目と、次元と日付情報に関する更に2つの項目を含んでいます。
5. 使い方 - これは変数が使われるたびに増やされる整数のカウンターです。その結果一番最後に使われた変数に印がつけられます。どんな順序で変数が保存されているかは Use の列を見ればわかります。
6. ファイル - 実行の最後で変数が保存されるデータバンクの指標です。殆どの場合これはゼロです。